

かわら版

寄居町にインタビュー

～地域ケア会議への取り組み～



埼玉県では、地域包括ケアシステムを推進するため、専門職からなる**総合支援チーム**を市町村へ派遣しています。今回は、寄居町の地域ケア会議に携わる地域リハビリテーション・ケアサポートセンター<以下、サポセン>、協力医療機関、寄居町役場の皆さんにインタビューを行いました。

地元愛溢れる多くのリハビリ専門職と 共に地域に貢献したいです。

県 サポセンとしてどのように関わっているのですか？寄居町のケア会議の印象はどうですか？

飛田 地域ケア会議・介護予防事業などで関わっておりますが、COVID-19の影響で地域ケア会議での関わりが主です。町のケア会議は、地域包括支援センターとの関係性が良く、温かくて思いやりのある会議だと感じます。

県 関わり始めた頃と現在で、どのような変化がありましたか？

飛田 当初から事例提供者への思いやりや助言者との意見交換が行われやすい雰囲気はありましたが、さらに、そこを伸ばしつつ、具体的な助言を導くためのコーディネートや事例提供者の満足感といった結果や成長につながる会議になってきています。

専門性と人としての学びを通じ 地域の役に立てた事を実感

県 サポセンとして心掛けている事や、良かったことを教えてください。

飛田 各職種の能力向上はもちろん、多職種の繋がりを通じ、常に学び成長し続ける町を目指して欲しいと願っています。今まで培ってきたリハビリ専門職としての専門性と、人としての学びを通じて、地域のお役に立てることが実感できました。多職種との繋がりも強くなり、幸せと成長を感じられています。



埼玉慈恵病院 理学療法士 飛田さん
(サポセン北部圏域)

北部圏域のケア会議で 感じる雰囲気

県 北部圏域のケア会議の雰囲気はどうですか？

飛田 市町によって雰囲気に差はありますが、参加者同士の関係性は良好ですし、会議体として前向きに成長を目指している雰囲気が伝わってきます。

県 オンラインケア会議のメリットとデメリットについて感じた事をお聞かせください。

飛田 会議中に隣の人と簡単な会話で意見交換・共有といったことが難しく、会議前後に自由な会話の機会がないため、思うように関係性を深められないかもしれません。しかし、圧倒的に時間と経費の節約になるため、便利に感じます。

オンライン方式での 迅速な再開に驚き

県 印象的な出来事がありますか？

飛田 COVID-19の影響で、対面での地域ケア会議が中止を余儀なくされたにもかかわらず、早い段階で、当たり前のようにオンラインで再開できた時は、驚きの反面とても嬉しかったのを覚えています。

県 ケア会議で大切にしている事はありますか？

飛田 質の高い地域ケア会議を行うことだけでなく、利用者・家族や事例提供者、助言者など関わる全ての方、事業所・施設、市町の幸せと成長に貢献することと考えています。

県 大変だったことや難しかったことはありますか？

飛田 (寄居町について) 6事例まとめたモニタリングは、オンラインでの運営・時間管理もさることながら、適切な助言者へ適切な質問を行い、しっかり事例提供者に満足感を持っていただくなど、大変ながらも成長を感じられるものでした。

(北部圏域について) サポセン指定を受けた年度からコロナ禍での支援を余儀なくされたため、事業開催の有無が不透明だったり、協力医療機関からの派遣ができないなどもあり、難しい対応を迫られました。ご協力いただいた専門員の方々には本当に感謝の気持ちで一杯です。



埼玉よりい病院 理学療法士 **猪岡**さん
(協力医療機関)

各職種の熱意を感じ、 とても刺激をもらえます。

県 協力医療機関としてどのように関わっているのでしょうか。

猪岡 当院は協力医療機関として3町(寄居町・美里町・上里町)の介護予防事業や地域ケア会議に関わっています。

県 ケア会議に対する感想、印象的だったことについて教えてください。

猪岡 困っているケースについて「みんなでなんとかしよう！」という雰囲気を感じます。今まであらゆる職種の方が一堂に集まって話し合う経験はほとんどなく、一人の方に様々な職業の方が関わっていると感じました。また、各職種の方の熱意を感じ、とても刺激をもらえます。会議後に訪問Cの利用が決まり、実際にご自宅へ伺うことになったことがあります。それまでは机上での話し合いだったものが、より現実的に感じられた瞬間でした。

病院業務以外でも 「地域へ貢献したい」という 想いを実践できていると実感

県 協力医療機関として心がけている事や、良かった事がありますか？

猪岡 埼玉よりい病院という看板を背負って参加しているということは常に意識しています。また、病院業務だけではなく、違う形でも地域への貢献をしていきたいと考えています。

良かった事は、地域へ貢献したいという想いを病院業務だけではなく、違う形でも実践できていると感じられることです。

また、お一人お一人のケースに様々な職種の方が様々な形で関わっているという事を肌で感じる事ができて、毎回とても勉強になっています。

『傾聴』を大切に

県 ケア会議で大切にしている事は何かですか？

猪岡 『傾聴』です。人の話をよく聞いて、内容を深く理解することを意識しています。その上で自分の考えを簡潔にまとめ、より具体的な方法で、すぐ出来ることを伝えるようにしています。

県 オンライン方式のケア会議はどうですか？

猪岡 会話のやり取りで少し時間がかかる点は不便に思うかもしれませんが、みなさんに届いているのか、わかってもらえたのか、伝わっているのかなどの雰囲気がつかみにくいです。

また、質疑応答などではワテンポ遅れての受け答えになります。かぶせて発言することなどができません。

ただ、会場に行かずにできるので移動時間がないことは便利です。また、情報の提示や情報源をチャットやカメラを通じて見られるので説明などがわかりやすいです。

県 県の支援を受けるきっかけは何だったのでしょうか？

町 平成30年より会議を行っていますが、事例にあった検討ができていたのか会議全体のコーディネートを見直したく支援を依頼しました。

いきいき生活できる 「よりいい町」に

県 ケア会議を通じて町をどうしていきたいですか？また、今後の抱負を聞かせてください。

町 生き生き生活できる「よりいい町」にしていきたいと考えています。関係者の方と共に支援体制の見直しや、改善方法を一緒に検討できればと思います。

また、事例を通じた地域課題の検討、地域資源の発掘を通じて良い方向に行ければと考えてます。寄居ならではの関係者との距離の近さを活かし、アットホームな会議にしていきたいです。ケア会議を続けていくにつれて、ケアマネジャーさんや助言者の方との距離が近くなったと感じます。

継続していくからこそ 見つかる新たな課題

県 ケア会議の雰囲気や、オンライン方式を実施した感想はどうでしょうか？

町 会議を重ねるにつれ、事例提供者と助言者の積極的な議論がなされたり、会議後に参加者が笑顔になっていたり、温かい雰囲気だと感じます。参加者の顔が見えることで会話しやすい雰囲気になったと思う一方で、オンラインならではの「間」があり、発言のタイミングや会話のテンポに慣れるまで時間がかかりました。対面時よりも参加者の緊張を感じていましたが、最近ではスムーズに会話ができるようになったと思っています。チャット機能を活用し、会議進行中にもメッセージや参考資料を送付でき、より活発な議論が進むようになりました。

また、オンラインにより会場までの移動時間や会場準備が簡易になりました。

その一方で、インターネット環境の問題で会議が中断することがありました。トラブルを未然に防ぎ、早急な対応ができるよう勉強していく必要があると考えています。

寄居ならではの
関係者との距離の近さを活かし、
アットホームな会議にしていきたいです。



論点整理・会議の コーディネートに苦勞

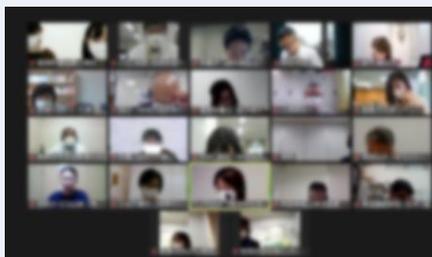
県 大変だった事、難しかった事はありますか？

町 論点整理、会議の方向性が難しいと感じます。県総合支援チームの皆様には支援をいただきながら、論点整理を試みっていますが、一人ひとり課題が異なる中で、いかに本人の希望する生活を叶えるために必要な支援方法を検討していくべきか、勉強しながら理解を深めていきたいと考えています。

県 今後の寄居町の課題は何だと思えますか？

町 (町全体について) 高齢化に伴い、多様なニーズ、需要増大等がある中で生活基盤の整備等の見直しが必要になると考えています。

(ケア会議について) 総合支援チーム皆様のご支援があり、おおよそ会議コーディネート方法を見直すことができました。今後は、モニタリング方法や支援者へのアプローチ方法等を見直し、更に良い会議となるよう検討していきたいと考えています。



オンラインケア会議の様子

※プライバシー配慮の為、モザイク加工

寄居町 ミニデータ



寄居町 人口32,755人(うち高齢者人口11,013人)※
令和2年度より地域ケア会議の見直しを目的として、県総合支援チームの派遣を受けている。

※寄居町自治防災課ウェブページ「人口・世帯数」より

Next 総合支援チーム・リハ推進協

埼玉県地域包括ケア総合支援チームとは？

埼玉県では、地域包括ケアシステム構築を推進するため、市町村へ専門家チームを派遣し、伴走型支援を実施しています。

埼玉県



伴走型支援



市町村



- 地域ケア会議
 - 介護予防
 - 生活支援
 - 移送支援
 - 認知症施策
 - ケアラー支援
- など

総合支援チーム員(地域ケア会議・介護予防)



一般社団法人埼玉県リハビリテーション
専門職協会 代表理事
理学療法士 岡持 利亘 氏



一般社団法人TMG本部
理学療法士
渡邊 賢治 氏



埼玉医科大学総合医療センター
作業療法士
平田 樹伸 氏

令和3年度 第1回 地域リハビリテーション推進協議会 9月14日オンライン開催

斉藤正身会長（日本リハビリテーション病院・施設協会会長、霞ヶ関南病院理事長）をはじめとする14名の委員のほか、県内10か所の地域リハビリテーション・ケアサポートセンターの職員が出席し、本県における地域リハビリテーションに関して意見交換や議論が行われました。

◆コロナ禍での市町村支援(地域ケア会議・通いの場)

地域ケア会議・通いの場の再開や継続支援等の取組について報告・情報共有

発表者 さいたま圏域：さいたま市民医療センター

南西部圏域：富家病院

◆令和2年度の市町村支援の実績

コロナ禍により協力医療機関等の派遣件数は大きく減少

R2実績：介護予防ボランティア養成講座等156件、

介護予防教室等505件、地域ケア会議・事例検討会等362件、研修等802件

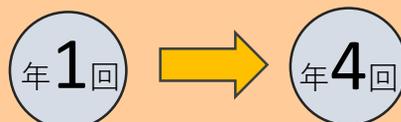
協力医療機関等の皆様には、昨年度、今年度ともコロナ禍で非常に厳しい状況にもかかわらず、市町村支援にご協力を頂き、改めて感謝申し上げます。

◆埼玉県総合リハビリテーションセンターとの連携

今後の地域リハビリテーション支援体制の推進にあたっては、埼玉県総合リハビリテーションセンターとの連携を更に強化していくことで意見が一致。

◆広報の強化

地域リハビリテーションに関する理解を広めるため、かわら版の発行頻度を年4回に増加。



かわら版の内容に関する御意見・御要望がございましたら、以下にご連絡ください。



埼玉県マスコット
コバトン

発行 埼玉県 福祉部 地域包括ケア課

TEL 048-830-3256

FAX 048-830-4781

E-mail a3250-03@pref.saitama.lg.jp



埼玉県ホームページ
地域リハ支援体制